

現時の保育問題

奈良女高師教授 森川正雄

(二) 小學校下級と幼稚園とを結合した 新學校組織案

小學校と幼稚園との各々の立場の異同、或はその相互の關係連絡といふ事について、從來二つの違つた意見が行はれて居ます。(甲)は小學校と幼稚園とは性質が違ふ、其重大なる相違點を一言にいへば、前者は教授の場所であり、後者は嬉遊の場所であると言ふのであります。(乙)は子供の生活は成長發達にある、成長發達は漸進的推移的なるものである。なるほど時期時期によつて發達上の變化特色はある、併し何も幼蟲と蛹と蛾との生活段階の如き截然たる違つた生活が幼稚園と小學校との生活の間にあるのではない、兩者の相違は性質の違ひではなく程度の差違に過ぎないと言ふのであります。右の二つの考は他の種々の考と混同して我國ではまだ可なり著しく對立した意見として行はれて居ます。思ふに是は著眼點の相違から來た異見と言ふの外はないと思ひま

す。何せといふに小學校上級と幼稚園年少組を比較すれば其の差甚しくて(甲)の意見の様になり、之に反して小學校下級と幼稚園年長組とを比較すれば(乙)の意見の様にならねばならぬからであります。

近年米國に於て此の問題についての研究や意見や實驗報告などが段々發表せられて居ます。兩者の連絡案或は新學校組織案などとなつて現れて居ます。此に參考の爲に、是等の中から有益と思はれるものを取捨して概要を摘記して見ようと思ひます。兩者の關係を明にする便利の爲に新學校組織案の方を擇びます。その新學校案の基礎的理論とも言ふべきものは次の通りであります。

經驗を積む事と之を統一する事とは常に相表裏して行はれる事ではあるが、併し幼兒兒童は或時期(A)には専ら經驗の集積に主力を用ひ、或時期(B)には専ら其の整理組織といふ事に主力を注ぐといふ事がある。大體的に言へば四歲頃から九歲

頃までは前の時期(A)に屬し、九歳から十二歳頃までは後の時期(B)に屬する。それ故、四歳から九歳頃迄即ち幼稚園と小學校下級とを合せて「幼稚園學校」とも名づくべき一新學校を造り、専ら此の時期の幼童の發達に適應した方法を用ゐたならば教育の効果を今日よりも一層顯著にすることが出来るであらう。現在の小學校下級の教科材料中には上級に繰延べた方が宜いのがあり、又幼稚園から始めて宜い材料も少くない。特に幼稚園の自然的なる方法は小學校に延長せられて效多きものと信せられる。此の幼稚園學校時期の特色とも言ふべきものを擧ぐれば。

(一) 幼童の實地經驗の知識は狭少であるから論理的概念や法則を作るに適せず、又經驗の擴がり行くことが急劇であるから知識は改造を受ける事が甚しい。同一言語で言ひ顯しても其の内容は常に動搖して居る。

(二) 神經と筋肉との連結がまだ不充分であるから緻密な仕事には適しない。併し筋肉を使用することは多くしなければならぬ。幼少なほど運動が伴はないと意識は昏睡に傾き易いから五官器

や四肢やの筋肉活動を同伴せしめる事が必要である。

(三) 此の時期は發達に於て個人的差違が甚しいから特に個人別取扱に力を用ゐねばならぬ。劃一的方法は最少限度におかねばならぬ。

(四) 自己の成立に急に、社會的自覺に不充分であるから、幼童自身の要求、自己目的の行爲、自己の選擇の方法を重んじ、又將來の爲といふよりも現在の爲に多きをなさしめねばならぬ。

(五) 方法は遊戲的方法、本能的方法を利用するが宜い。組織的方法によるよりも此の方が却つて注意を長く持續し且努力を誘出し易い。

現在の弊風を言へば、此の經驗集積時期に於て、却つて多くの時間を形式的鍛鍊の爲に空費し過ぎて知的不消化を生せしめ、其の爲に他面、次の組織時期に入つて概念や法則を造るに當つて其の基礎たるべき實地知識の缺乏を苦ましめ、其の時期に恰も饑饉のまゝ働かねばならぬが如き状態に陥らしめて居る。